

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立 中学校 第2学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	①我が国の言語文化に関する事項。 ②主体的に学習に取り組む態度。	①2学期に古文・漢文の授業があるので、基本的なことをしっかりと教える。 ②生徒の知識・関心を考慮した授業を展開する。	【成果】3学期の探求型グループ発表では、関心のある問題について考察し、発表することができた。 【課題】3学年で和歌があるので、もう一度古典の基礎知識について復習する。
社会	・人の意見を聞き、それに対し、自分の意見を述べる。 ・話し合い活動を発展させる力。 ・様々な資料から読み取り、結果を導き出す力。	・他の意見に対して、視点をかえるような見方ができるように働きかけ。 ・グループワーク、話し合い活動参加できていない生徒への働きかけ。 ・多角的・多面的な考察ができる資料の提示。	・資料等の活用については、ICT機器による提示が効果的だった。 ・主体的な話し合い活動への働きかけは、タブレットなどを多用しながら、他と関わりより深い学びができるように工夫していく。
数学	①知識を知っている生徒が多いが、その知識をどのように使うかを理解していない生徒が多い。 ②学力調査では、オンライン授業で行ったデータの活用領域が低い結果となった。	①授業内で学んだ知識を活用する時間を多くするために、反転指導等を活用し、知識の学び時間を減らす工夫をする。 ②オンラインでの学習では不十分という結果が明らかとなったので、授業でのインプットアウトプットを意識した授業展開を考える。	・反転指導を有効活用できた。 ・基礎基本の定着に差が出てしまっている。基本問題を繰り返し解かせ、できるようにするという、自己肯定感をもたせる。
理科	・身の回りの現象に興味関心をもって意欲的に学習に取り組む、主体的に課題を解決しようとする姿勢の育成。 ・自然現象の出来事に対して、また実験や観察等で得られた結果に対しての、科学的なものの見方や考え方、考察する力。	・日常生活の中で見られる現象や体験している出来事などを話題にとり上げることで、学習への興味関心を高め、進んで課題に向かう機会を設ける。 ・授業で使用するワークシートや、タブレットの効果的な活用で、実験観察時のポイントを明確にし、理論立てた考察がしやすいようにする。	・日常生活の中の現象と既習事項との結びつきを考えたり、学習で得た知識を発表するなど、関心をもって授業に向き合うことができた。実験観察にも積極的に取り組めたが、特に定量的な考察を苦手とする生徒に対する手立てを工夫する。
音楽	・新型コロナウイルス感染拡大のため、歌唱を伴う授業の際の制限や、マスク着用での歌唱練習となり、生徒の発声法の確認の不十分となり、生徒自身の歌唱への意欲が低下し、また、表現力も低下している。 ・校歌や合唱ではない歌唱曲への学習意欲の低下。 ・音楽への興味関心が偏っている。	・歌唱に関しては、生徒間の距離を保ち歌唱すること。 ・模範的な合唱の動画を鑑賞することで、より良い発声法を考えさせ、理論的により良い発声法を理解させる。 ・合唱だけでなく、歌唱や鑑賞を通じて様々な分野や歴史などにも視野を広げて音楽に触れさせる。	・歌唱については積み重ねが重要であるから、今後も歌唱の時間を多く取って、歌うことの抵抗感をなくしていく。 ・政府の方針を確認しながら、マスクを付けずに歌唱指導を行う。
美術	意欲や技能に個人差がある。一方で、1年時に木彫の基礎技能の習得が効果的に進められたので、その発展として各自の構想を个性的に生かす成功体験を増やしたい。また、抽象的なイメージや文字・言葉を、視覚的表現に起こす経験が足りていない。	木彫の仕上げに向けて、塗装方法を複数例示し、各自が元々の構想に近い仕上がりを选べるように個別に助言する。 また構想を練る時に、ピクマップを用いたり、生徒同士の意見交換の場を設けたりして、イメージの具現化が円滑に進むようにする。	言語や文字のイメージから視覚的なイメージにつなげる手立てとして、ICTを活用することができ、深く表現できた生徒が多かった。一方で、得られた情報をそのまま作品にしてしまう生徒もおり、活用方法について一層の工夫が必要だと感じた。
保健体育	・全体的に運動能力が低い。 ・積極性はあるが、技能面のさらなる向上が課題	・補強やトレーニングを授業内で取り入れ、体力向上に努める。 ・仲間と教え合いの機会を増やし、正しい動きや身体の使い方を身につけさせる。	・2学期以降、持久走を取り入れ、種目別に応じた補強運動を取り入れ、体力の向上に務めた。 ・苦手な子にも手を差し伸べるなど、集団としての雰囲気はよくなった。しかしながら、試合などの技術レベルはもう少し向上させる必要がある。
技術・家庭	(技術) ・昨年に比べて授業への集中力が向上したが、能力の開きは感じる。 ・手先の器用でない生徒が少なくない。(家庭科) ・関心や意欲の度合いに差があり提出課題がそろわない。 ・今年は調理実習をやっていないので体験学習の技術向上が課題。	(技術) ・Chromebookの活用。 ・反復練習用の課題に盛り込んだ。(家庭科) ・課題学習を取り入れ、意欲を高めるようにする。 ・実習内容を理解させるよう教材を工夫し、見本を取り入れて意欲を持たせるようにする。	(技術) 4月よりChromebookを活用していたこともあり、オンライン授業でも混乱なく授業を実施できた。エネルギー変換の学びでは成功体験により達成感を積み重ねることができた。(家庭科) ・コロナ禍で食物領域の実習をできなかったため、自宅での課題を活用した。
外国語(英語)	学んだ表現を理解し、使うことができる。一方で、特にスピーキング活動において主体的にコミュニケーションに取り組む態度の育成が課題。	コミュニケーションに取り組ませる時間を、十分に確保する。相手を思いやりながら、自分の気持ちを伝えることができるような活動を行う。	・学習内容を確認するテストを定期的に行い、達成度を生徒が確認できるようにした。話す活動や書く活動は日頃の授業で行っていたことから生徒の苦手意識低下につながった。 ・長い文章を読むことは苦手意識を持っている生徒が多いので、じっくりと読み、内容の概要を理解することができるよう授業で取り組んでいく。
道徳	・「読む力」「書く力」「考える力」を意識させ、この三点については3つの学級が歩調をそろえ、正しい態度で生徒に授業を受けさせる。生徒が授業者に注視ししっかりと聞き取る力を養う。	・様々な内容項目と絡めて授業で取り上げる。 ・道徳ノートを確実に活用し、左記の力について経験を積ませる。 ・必要に応じて情報端末も活用する。(デメリットとして、左記の力を獲得させる経験を積むことができないことが挙げられる。)	・生徒の実態を踏まえ、日常の話題とのつながりを意識した教材の提示により、自分事として考えられている。 ・授業形態の工夫により、お互いの考えの違いを知ることができ、視野を広げることができた。 ・タブレットの活用により情報共有や意見交換が活発にできた。
総合的な学習の時間	具体的にはキャリア教育、SDGsに重きを置き、学びを深める学習に取り組んだ。そうした学習の中で、集団から取り残されないようにユーザーフレンドリーな学びを教員サイドが提示していく必要性を感じた。一人一役、責任をもって自身のやるべきことに最後まで取り組む。(他人に依存しない、まかせっきりにならない)	・Chromebookの活用。(jam board,スライド,Forms,他) ・視覚からの情報獲得を目指し、スライドを多用した。特に各ガイダンスでの活用は効果的と考える。 ・学級に囚われず、学年で歩調を合わせた活動を心掛ける。	・校外学習では、日頃の学びを生かして臨機応変に行動することができた。 ・chromebookを使って調べたり、スライドにまとめたりの学習で、情報を活用する力がついた。 ・NPO訪問により、SDGsの学習を深化させることができた。 ・地域人材の活用により、地域の環境をより深く知ることができた。